



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03) 3271-2181
URL: https://www.t-namakyo.jp/
発行責任者 高村 尚

＝協組の動き＝

- (3月)
10日(月) 理事会(No. 1234)
24日(月) 理事会(No. 1235)
26日(水) 登録販売店実務担当者会議
27日(木) 全工場実務担当者会議
- (4月)
14日(月) 理事会(No. 1236)

【第49回 通常総会】

日時：5月26日(月)12時30分～
場所：第一ホテル東京

人事異動 【離任】

部署	氏名
3月1日 調整管理部	伊藤 文隆

【合格者追加のお知らせ】

まど384号にて2024年度コンクリート
技士試験合格者を掲載いたしました。三多摩アサノコンクリート(株)からも5名の
合格者がいらっしゃいましたので、ここに
掲載させていただきます。
合格おめでとうございます!
東京協組内の技士合格者は計12名と
なりました。

【追加】コンクリート技士合格者 (敬称略)

社名	氏名
三多摩アサノコンクリート(株)	富澤 善之
三多摩アサノコンクリート(株)	堀 隼人
三多摩アサノコンクリート(株)	望月 和
三多摩アサノコンクリート(株)	薩美 仁
三多摩アサノコンクリート(株)	武藤 広輝

生コンクリート業界の 存続と変革

生コンクリート生産における原材料や諸資材に加え産廃処理費などの高騰による大幅なコストアップの直撃、更には国策としての労働条件に伴う人件費コスト負担等、組合員各社の経営は悪化の一途を辿っています。よって、経営環境改善を目指して以下4項目の最重要施策に取り組んでいます。

①期間契約の定着と適正価格の獲得

2025年4月より定価を25,000円/㎡とするともに、継続して1年間の期間契約による出荷ベースの定着に取り組んでいます。全国生コンクリート協同組合連合会推奨の下、与党各党の生コン議員連盟及び経済産業省・国土交通省からのご指導もいただいています。需要家様から更なるご理解を得られるよう粘り強く交渉しています。

②安定供給の確保

適正価格をお願いするからには、引き続き高品質の生コンクリートを安定供給することは責務と考えています。引き続き運転手の確保に努めるとともに、2024年問題に真摯に取り組んでいます。

③完全週休2日制への取組み及びスライド改定

当協組では政府の推進する働き方改革の取組みを踏まえ、組合員の職場環境の改善、また人材確保の観点から完全週休2日制を2025年4月より導入することといたしました。生コン業界が継続していくためには若い人材が入ってくる業界にしなければなりません。若い人材が率先して働きたいと思える業界を目指し、まずは完全週休2日制をその一歩としたいと考えています。

また、30年ぶりにスライド表を改定します。様々なコストを見直し、現状に合わせたものです。需要家様にはご理解いただくべく説明してまいります。

④戻りコン・残コン削減と出荷キャンセルの減少

持ち帰りコン(戻りコン・残コン)の有償化を実施し削減を目指してきましたが、期待した効果には繋がっていません。一方、産業廃棄物処理場の処理能力は限界に近づき、受け入れ制限も実施され処理費も高騰を続けていることから、新スライド表では取消料を引き上げさせていただきます。

また、生コン業界としての脱炭素に向けた取り組みのひとつとして、持ち帰りコンの削減は大きな課題と捉えています。

2024年度(4~2月) 出荷実績と今後の展望

当協組の2024年度4~2月の出荷実績は、前年比93.8%の2,340千㎡と前年実績を大幅に下回りました。これは、建設技術者並びに作業員不足により都心部での再開発工事並びに新規工事において遅れが生じていること、異常気象による大雨の影響を受けたこと、更には、軽量骨材の需給バランスが大きく崩れたことによるものです。3月度の月初想定も190千㎡にとどまり前年比76.6%と前年出荷を大幅に下回る見込みです。これらを踏まえて2024年度の出荷数量は前年実績に対し大幅減の2,530千㎡と想定しています。また、2月末の契約残数量は3,441千㎡で前年比91.0%です。

2025年度の需要想定は2,700千㎡を見込んでいますが、諸資材の高騰及び作業員不足による工事の遅れは深刻であり、足元の出荷数量減に歯止めがかかっていません。

しかし、大幅に遅れていた品川地区再開発工事向け出荷も軽量骨材需給バランスの影響を受けましたが漸く山場を越えたものと思われま。日本橋・八重洲地区の再開発工事については6ヶ月程度の遅れで進捗しており、これから最盛期となる見込みです。

また、期間契約(R契約番号)物件の出荷は堅調であり、契約後、直ぐに出荷となる案件が多々見受けられます。2月以降の引合・成約には、大型物件が多く含まれており、夏頃には生コン出荷が旺盛になる見込みで低調な出荷から脱すると思われま。

2024年度 2月までの実績と下期見込み(㎡)

月	2023年度 実績	2024年度 実績・見込	前年比	年初計画
4	205,239	239,506	116.7	260,000
5	198,051	215,886	109.0	230,000
6	229,019	220,506	96.3	260,000
7	228,611	236,490	103.4	260,000
8	203,883	186,723	91.6	230,000
9	235,188	215,817	91.8	260,000
上期計	1,299,992	1,314,928	101.1	1,500,000
10	255,729	227,546	89.0	260,000
11	252,040	220,449	87.5	260,000
12	258,035	213,177	82.6	260,000
1	199,242	182,413	91.6	210,000
2	231,177	181,797	78.6	250,000
3	248,169	190,000	76.6	260,000
下期計	1,444,392	1,215,382	84.1	1,500,000
年度計	2,744,383	2,530,310	92.2	3,000,000

※3月は月初予定

新任代表者挨拶

柳下 涼太

昨年8月に新任代表者として就任いたしました、柳下生コン株式会社柳下涼太と申します。

私自身の経歴を少し紹介させていただきますと、大学卒業後に自身の就職活動で建設会社へ入社し、4年ほど現場監督として勤めさせていただきました。その間2現場ほど経験いたしました。(そのうちの片方は本組合物件で竣工はまだ迎えていませんが...)退職後弊社に入社しました。その後現職に至ります。

大学時代では建築学科として入学し、最終的に研究室ではコンクリートをテーマにした論文について取り組みました。(ちなみに研究室のつながりもなぜかオレンジでどこか妙な繋がりを感しました。)

当研究はIGCCと呼ばれる石炭ガス化複合発電の過程で副産物としてスラグが排出され、これを生コンの原材料の一部として活用できるようにする、というものです。ただ、高炉セメントのようにセメント置換するのではなく、砂として使用する、細骨材置換でした。試し練りでは、W/C・セメント品種・s/a・スラグ置換率それぞれの要素が異なる組み合わせで各配合において、

ブリーディング・単位水量を含めた性状試験、テストピース作製後には圧縮・曲げ試験のほか凍結融解・中性化・乾燥収縮試験を行い、結果をもとに分析するといったなかなかハードでやりがいのある研究に携わらせていただきました。

今思えば大変だったとは思いつつ(冬場の凍結融解は特にしびれました...)、教授や先輩のご指導のもと自身の経験や知識がかなり養われたと実感しております。

何代にもわたって進んできた研究とのことなので、いつか実現できるのではないかと思います。

就職活動時のエントリーシートのような文にはなってしましましたが、今後学生時代も含め、今までに培ってきたことを最大限活かしていきたいと思ひます。

最後になりますが、皆様には先代である父が生前中賜りましたご高配につきまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。先代の思いをしっかりと引き継いで、これからのさらなる産業発展のために諸先輩方である皆様と全力で取り組んでまいりたいと思ひますので、改めてよろしくお願ひいたします。

(柳下生コン(株) 代表取締役)

	(出荷数量)				(引合、成約、契残)	
	2月(実績)		3月(想定)		2月(実績)	
	前年比	前年実績比	前年比	前年実績比	前年比	前年比
大型	161,122 m ³	77.2%	170,000 m ³	76.6%	引合	410,688 m ³ 197.0%
小型	20,675 m ³	92.4%	20,000 m ³	76.6%	成約	341,568 m ³ 195.9%
計	181,797 m ³	78.6%	190,000 m ³	76.6%	契残	3,441,182 m ³ 91.5%

2024年度「共販・経営者セミナー」開催 全生連関東 I 区地区本部・東京都工組

全国生コンクリート工業組合連合会関東 I 区地区本部と東京都生コンクリート工業組合は、2 月 21 日(金)に都内のホテルにおいて 2024 年度の共販・経営者セミナーを共同開催しました。

冒頭、主催者を代表して挨拶された斎藤本部長は関東 I 区の生コン業界の重点課題として、(1)需要開拓 (2)適正価格の獲得 (3)人材確保 の3項目について触れられ、引き続き、今回はダイヤ精機株式会社代表取締役社長の諏訪貴子(すわたかこ)氏が講師として招かれ、「中小企業の経営改革と人材確保・育成」の演題で講演をされました。

同社は 1964 年に諏訪社長の父親であ

る先代社長が創業された、自動車・部品メーカー向けのゲージ・治工具の製造を行う東京都大田区内の所謂「町工場」の代表的存在であり、諏訪社長は「町工場の娘」、「ザ・町工場」、「町工場の星」の著者としてメディアを通じて広く知られております。

講演の内容は、先代社長の急逝に伴い 2004 年に 32 歳の若さで代表者に就任した諏訪社長の当時の苦労話も交えながら、中小企業である「町工場」ならではの現場主義を基本としつつも、合理的な解析手法を採り入れた「経営改革」と「人材育成」に関わる多くの体験談に基づくものであります。

その中で中途採用の場合の留意点として披露された、(1)経験者に拘らず未経験者にも門戸を広げること (2)対象者の前職種退職(転職)の理由が「自責」か「他責」のいずれであるかを見分けること(自責の場合は過去に執着しないので転職後の職種に定着しやすいが、他責の場合は過去に未練が残る傾向がある)の2点は職種を問わず当てはまる参考事象であるかと思われます。

講演は諏訪社長の澁みない語り口で時間を余すことなく進められ、盛況のままに閉会しました。

2025年度 ゴールデンウィーク休業日一覧表

Table with 2 columns of factory names and their respective holiday schedules for April and May 2025. It includes a '健康で! 安全に!!' banner at the bottom left.

東京協組 職場紹介 ~管理本部~



東京協組の職場紹介は今回が最終回、管理本部をご紹介します。まず、その前に、「東京地区生コンクリート協同組合」は 1977 年 2 月に設立され、2 年後には 50 周年を迎えます。現在加入している会社(組合員)は 46 社ですが、言うなればライバル同士の集まりです。東京協組は競合する組合員同士が相互扶助の精神に基づいて生コンの共同受注販売を行うとともに、組合員の経営の安定化・合理化や経済的地位の改善向上を図ることの他、生コンの諸問題の解決等を目的としてできた組織です。

このような組織であることが許されるのは協同組合が中小企業等協同組合法によって独占禁止法の適用が除外されているからです、その目的達成のために影で支えるのが管理本部です。

管理本部は 2024 年 4 月の組織改編によりできた新しい組織ですが、旧業務部がここに該当します。経理部、総務課、システム管理課の 3 つから成り、東京協組における間接部門です。経理部は日々の取引を帳簿に記録し決算書類の作成や予算編成業務を行っています。また、借入のための銀行との折衝や日々の資金収支管理に加え、資金収支計画を作成し将来の手元資金を確認しています。更に債権管理業務等を通し組合が円滑に運営できるよう計数面で支えています。

総務課は出向者関連手続きや各種契約書の締結等、組合員及び登録販売店との事務的事項の連絡窓口であるとともに、総会、理事会、賀詞交歓会、組合員オーナー会議や、本紙『まど』の事務局でもあります。また、登記や官公庁への届出業務の他、入居しているビルや町内会(日本橋三丁目西町会)とも連携を取っています。

システム管理課は各組合工場や登録販売店が使用している出荷管理システム/情報提供システムの企画/管理の他、協組内にある IT の管理や、協組全体の IT 化推進を行っています。なお出荷管理システムは 2025 年度以降にハードウェア及びソフトウェアの更新を予定しています。

この他、当面の間は「50 周年記念事業企画」の検討業務にも携わっています。

管理本部は人数が少なく小さな組織ですが、業務範囲が広く当事者間との調整が必要となってくる業務が多々あります。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いたします。

(写真左から、中西システム管理課長 齋藤さん(経理部)、末竹経理部長、山本顧問、高橋総務課長)